

令和七年度 奈良金春会演能会

令和七年六月二十九日(日) 午後十二時半はじめ

奈良春日野国際フォーラム薨  
(旧称 奈良県新公会堂)

能楽ホール  
奈良市春日野町一〇一番地  
電話(〇七四二)二七一二六三(〇代)



仕舞 兼鶴 平亀

吉川 恵宥  
湯本 哲明

能 奈良詣

シ テ(前) 悪七兵衛景清 金 春 飛 翔  
 子 方源 頼朝 明 渡 風 花  
 ツ レ景清の母 中 田 能 光  
 ツ レ頼朝の従者 金 春 嘉 織  
 ツ レ頼朝の従者 田 中 直 樹  
 ツ レ頼朝の従者 松 浦 良 太  
 ワ キ頼朝の従者 原 山 竜 正 陸  
 ア イ(東大寺の強力) 茂 山 竜 正 陸  
 小 鼓 荒 木 建 作  
 大 鼓 山 本 寿 弥

〈 休 憩 二十分 〉

狂言 棒 縛

羽衣キリ 仕舞 小袖曾我 黒塚

シ テ次郎冠者 茂 山 千五郎  
 ア ド(主) 人 松 本 薫  
 ア ド(太郎冠者) 茂 山 茂

能 鶉 飼

シ テ(前) 老翁 後(地獄の鬼) 金 春 憲 和  
 ワ キ(旅) 僧 原 大  
 ワ キツレ(従) 僧 原 大  
 ア イ(所) 者 山 下 守 之 陸  
 笛 赤 井 啓 三  
 小 鼓 荒 木 建 作  
 大 鼓 上 野 義 雄  
 太 鼓 上 田 慎 也

### 奈良詣 (ならもうで)

解 説 中 司 由起子

源平合戦の後、敗れた平家の侍、悪七兵衛景清(シテ)は西国に潜伏していたが、奈良東大寺の大仏再建にあたり供養があると聞き、若草山辺りに住む母(ツレ)を久しぶりに訪ねる。母は景清が源頼朝の命を狙うことを案じ、景清は源平の戦いを振り返り、今の境遇を嘆く。やがて夜が明け、二人は涙ながらに別れる。大仏供養の日、頼朝(子方)が家臣(ワキ)従者たち(ツレ)を従え現れる。景清は、場を清める神職の姿で群衆に紛れ込み、頼朝に近づこうとして家臣に見咎められる。景清は神仏の威光を盾にきり抜けようとするが、家臣は景清の武装に気付き詰問する。景清は再び雑踏に紛れ、家臣は従者に追討を命じる。警戒が強まり、景清は暗殺を諦めるが、名乗りを上げて大勢の敵に割って入り、若武者を切りつけ、次の機会を待つと言い残し、姿を消すのであった。

緊迫感に満ちた大仏供養でのやりとりは、見どころの一つ。他流での曲名は「大仏供養」である。

### 鵜

飼 (うかい)

安房国清澄の僧(ワキ)が供の僧(ワキツレ)を連れ、甲斐国石和川を訪れる。僧は一夜の宿を里の男(アイ)に乞うが、断られてしまう。代わりに川辺の御堂を教わった僧たちは、御堂で一夜を過ごすことにする。すると御堂に鵜使いの老人(前シテ)が現れ、殺生禁断の川で鵜を使ったのが露見し、殺されて地獄に堕ちたと語る。そして、鵜飼の様子を見せ、暗闇へ消え失せる。里の男に話を聞いた僧が、川の小石に法華経の文字を記して叩くと、地獄の鬼(後シテ)が現れる。鬼は、老人が生前におこなった僧への善行と経文の功德によって成仏したと告げて、法華経を讃美する。

生き生きとした鵜飼の様子を再現して見せる「鵜ノ段」には、殺生を戒める仏教の教えを知りつつも漁にのめりこむ人間の業が描かれているようです。

### 次回予告

七月二十七日(日)午後一時  
十月十九日(日)午後十二時半

奈良金春会 連合謡曲仕舞会

能 小 鍛 冶  
能 景 清

田 中 直 樹  
金 春 穂 高

### 四枚綴回数券

二〇、〇〇〇円

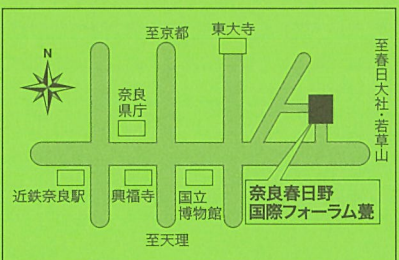
### 一般一回券

七、〇〇〇円

### 学生一回券

三、五〇〇円

◎鑑賞券は、奈良春日野  
国際フォーラム薨でも  
取り扱います。



奈良春日野国際フォーラム薨 能楽ホール

電話(〇七四二)二七二六三〇(代)

・近鉄「奈良駅」から奈良交通バス市内循環

「大仏前」下車 東へすぐ

・近鉄「奈良駅」から徒歩二〇分

主催 奈良金春会  
後援 奈良良春会

奈良市教育委員会  
(公社)金春円満井会

お問合せ電話  
(〇七四二)三三一九七二〇 金春

◎特別に許可された人以外の 写真撮影・録画・録音は お断りします。

◎携帯電話は電源をお切り下さい。また会話・飲食など、他のお客様の迷惑になるような行為は御遠慮下さい。

◎奈良春日野国際フォーラム薨の駐車場は、現在一般の方の車の受け入れをしております。車でお越しの方は、他所に駐車場をお求めいただくこととなります。

◎満席の場合など、当日会場では入場券を発売しない事があります。又、入場制限する事もあります。

◎都合により、演者、曲目が変更される場合があります。

### ◎新型コロナウイルス感染症対策として

●マスクの着用は、ご来場されたお客様の任意といたしますが、場内での会話はお控えください。

●また、アルコール消毒については、今まで通りお願いいたします。

●入場時発熱状態の方は、入場をご遠慮いただきます。

●会場の定員は五〇〇名ですが、座席数に制限をかける場合があります。